

1/25000の地形図は「三河富岡」「三河大野」が該当します。

## 『歴史探訪ハイク』ガイド

### 1 実施日時

平成21年8月7日(金)

行程(場所)	時間等
吉川公民館前	集合 8時15分 バス出発 午前8時30分
桜淵公園	到着 午前9時00分
(ハイク)	-
桜淵公園	集合 午後2時20分までに集合のこと バス出発 午後2時30分
吉川公民館前	到着 午後3時10分

### 2 実施場所

新城市設楽原歴史資料館と徳川家康本陣跡  
長篠城址史跡保存館とその周辺

### 3 目的

新城市設楽原歴史資料館・長篠城址史跡保存館を訪問し、新城の歴史と文化にふれる。

### 4 目標

- 1) 新城市の町並の歴史、文化にふれる。
- 2) 長篠・設楽原の戦い、火縄銃、岩瀬忠震等の歴史について資料館を訪問して調査する。
- 3) 進級科目、ターゲットバッジを修得する。

例) 進級科目 2級スカウト「1. ハイキング(1)(4)(5)  
ターゲットバッジ A5、C1

### 5 参加人数

7日: バス1台(45人)

### 6 往復の交通

桜淵公園と野営場間でプログラム用バスを運行する。

### 7 参考コース

- 1) 桜淵公園～徳川家康本陣跡～設楽原歴史資料館～桜淵公園
- 2) 桜淵公園停～長篠城址史跡保存館と周辺史跡～桜淵公園

両方の資料館、保存館の両方を訪問する必要はありません。

各隊班の体力に応じてコースを設定してください。

両地とも JR 飯田線駅に近いので一部電車利用も考えられますが、運賃は各隊負担となります。

### 8 服装、持ち物

ハイクに適した服装、帽子、雨具、筆記具、個人救急品、タオル、ハンカチ、ティッシュ、昼食、お茶、行動食、健康管理カード(健康保険証のコピー)、緊急連絡用のお金、その他ハイクに必要なとされる物。

### 9 GHQが用意する物

移動用バス、新城市設楽原歴史資料館入場料、長篠城址史跡保存館入場料

2施設の入場料は、当日担当者からチケットをお渡しします。

### 10 安全対策

暑さ(熱中症等)に注意し、日陰で休養をとりながら水分を取る。前日の睡眠を充分とる。  
交通安全対策を各参加隊で十分検討する。

### 11 注意事項

緊急連絡先の(隊長携帯電話、SHQ携帯電話、吉川野営場)指示をする。

歴史資料館の展示物等に十分注意し、他の人に迷惑を掛けないよう観覧する。

## 選択プロ 歴史探訪ハイク

### 新城市設楽原歴史資料館

#### 設楽原からのメッセージ

奥三河の山なみがゆるやかな丘陵地帯に変わり豊川の下流に向かって平野がはじまるところ……ここが設楽原です。

雁峰山の山すそに続くこのあたりは古く信州往還が通り、この地域の交通の分岐点でしたが、それは奇しくも戦国の時代を分ける日本歴史の分岐点でもありました。

四世紀前の一五七五年、この地で行われた鉄砲の戦い『長篠・設楽原の戦い』で、当時最強といわれた武田の騎馬軍団は織田・徳川連合軍の馬防柵を軸とした新戦法に敗れました。これを境に戦国歴史の歯車がその流れを大きく変えていきました。

そして、三百年を経て、設楽原は『岩瀬忠震』という一人の人物を通して再び歴史の転換という大きな出来事にかかわります。幕末の開国条約交渉にあたりながら、設楽家三男の忠震は黒船の時代をひたすらに駆け抜けて行きました。

あれから百数十年、設楽原は次の時代へのメッセージを、この資料館に託します。  
わたしたちの『きのう』を見つめるために、わたしたちの『あした』を考えるために。

### 徳川家康本陣跡案内



#### 【歴史】

天正3年(1575)5月、武田軍に包囲された長篠城を救うために、家康は信長と共に設楽が原に出陣した。家康はここ弾正山に本陣をおいて、ここから東へ約300mの所を流れる「連吾川」を挟んで武田軍と対峙した。ここは最前線となったのだが、家康がここに陣を構えて多大な犠牲を払ったのは、信長に援軍を頼んだからだといわれる。ここから東北約400mの所に「家康物見塚」がある。そこは家康が陣頭指揮をしたところである。

#### 場所の詳細

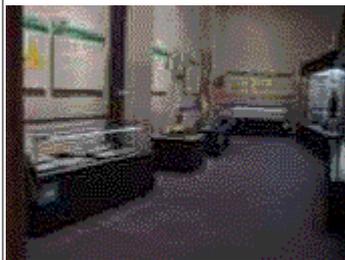
国道151号(バイパス)で宮川を東へ渡り、100m程東進して左折する。200m程北上すると「東郷中学校」が右手にあり、これを通り過ぎたすぐ右手の八剣神社が本陣跡である。

## 設楽原歴史資料館案内

長篠の戦いの決戦場となった設楽原には新城市設楽原歴史資料館があります。  
この資料館は、長篠・設楽原の戦い、火縄銃、岩瀬忠震を紹介するため、平成8年4月にオープンしました。  
それでは資料館をご案内いたします。



瓦が敷かれた通路を歩いて建物に入っていきます。  
建物に入るとすぐ受付があります。そこで入場券を求め、展示室へ向かいます。  
展示室への入口に「設楽原からのメッセージ」が掲げられています。  
いよいよ、展示室です。展示室に入るとすぐに展示室内のマップがあります。  
大きく「長篠・設楽原の戦い」「火縄銃」「岩瀬忠震」「火おんどり」の4つのコーナーに分かれているのが分かります。



入口に一番近い「長篠・設楽原の戦い」コーナーから見ていきます。  
まず、はじめに「信玄砲」が展示してあります。この「信玄砲」は野田城主であった菅沼定盈が武田信玄を狙撃したという伝説が残されている火縄銃です。  
その前を通り過ぎ、壁に掲げられているパネルに目を向けると戦いの流れが時を追って記されています。  
このパネルをまとめたものが受付で『設楽原と火縄銃』(300円)という小冊子になって販売されています。  
大きな展示ケースをのぞき込むと小さな白い玉が5つほど展示してあります。  
これが、戦いで実際に使われた鉄砲玉です。思いの外、玉は小さく、鉛でできており、真っ白になっています。



次に「火縄銃」コーナーです。  
まずその数に圧倒されます。火縄銃の展示してあるだけで約80挺。  
しかも、似たような火縄銃ばかりではなく、大きいものから小さいのまで、地味なものから装飾に富んだ火縄銃まで、とてもバラエティーに富んでいます。  
また、火縄銃の歴史が分かりやすいように古い型式から新しい型式へと、さらに作られた産地による分類など見る人によって色々な見方ができます。  
また、パネルには火縄銃のことが何でもわかるように記されていて、これも『設楽原と火縄銃』のなかにまとめられています。展示してある資料の中でも圧巻は長さが3m以上もある鉄砲です。



次に幕末の外交官「岩瀬忠震」コーナーです。  
鎖国下にあった日本を開国へと導いた岩瀬忠震について紹介しています。  
忠震の業績をパネルで紹介し、さらに忠震の遺した書画などからその人柄を偲ぶことができます。  
パネルは小冊子『岩瀬忠震』(300円)にまとめられています。



最後に「火おんどり」コーナーです。  
長篠・設楽原の戦いで亡くなった戦没者を供養するために毎年8月15日の夜大きなたいまつを焚き、それを振り回すという供養祭です。  
戦いの直後から毎年欠かさず行われてきた火の祭典です。

## 長篠城址案内

長篠城(ながしのじょう)は、三河設楽郡長篠(愛知県新城市長篠)にあった城(平城)。現在は国の史跡に指定され、城跡として整備されています。1575年(天正3年)5月の長篠の戦いに先立つ長篠城をめぐる激しい攻防戦で知られています。



本丸・野牛曲輪跡



内堀と土塁

長篠城は、豊川と宇連川が合流する断崖上にあり、本丸、帯郭、野牛郭、巴郭、瓢郭、弾正郭等があります。戦国時代末期の城であるため、現在、建物は残っておりませんが、一部残っている内堀と土塁が城の東側を守り、後方は合流する2つの川が堀として巧みに利用されている様子から、ここが天然の要害であったことがわかります。長篠城は、永正5年(1508)、菅沼元成が築城し、天正3年(1575)、徳川家康が奥平貞昌(信昌)を城主に任命し、城を守らせました。

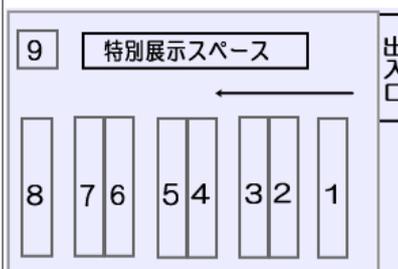
もとよりこの城は、愛知県から長野県、静岡県北部、さらに山梨県へ通じる道中にあり、戦国時代、武田と徳川が拠点として奪いあった城でした。

### 【周辺案内図】

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/images/content/6834/20090320-132854.jpg>



長篠城址史跡保存館は、「日本100名城」に数えられる「長篠城」の城址(国指定史跡)にあり、日本戦史を彩る「長篠の攻防」に関する資料を保存・展示しています。



館内は、「長篠の攻防」を次のように展示しています。また、特別展示スペースでは、長篠城にゆかりの資料を常設、または企画展で展示しています。

- 1 武田信玄の雄図
- 2 長篠のろう城
- 3 鳥居強右衛門の勇気戦
- 4 決戦の前夜
- 5 設楽原の決戦
- 6 長篠の戦いと鉄砲
- 7 戦いとその後
- 8 跡全体模型
- 9 参考品(鎧)



### 【展示案内】

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/1,6627,118,664,html>

## 戦国時代の舞台

長篠城は、永正五(一五〇八)年、今から約四百八十年前に菅沼花成が築城。豊川と宇連川の合流点を二方に利用し、北方に人工の堀と土塁を築いた堅固さが特徴だった。菅沼氏は、最初は今川氏に属し、やがて徳川、武田氏と仕えたが、天正元(一五七三)年に再び徳川氏の属城となり、同三年には奥平貞昌(後の信昌)が二十一歳で城主となった。

元亀三(一五七一)年、武田信玄は三方原で徳川家康を破り、翌年に三河へ攻め入って野田城を落城。しかしこの後、信玄は病を患い病死するも、その子、勝頼が信玄の遺志を受け継ぎ上洛を決意。天正二年に足助、明和、高天神のそれぞれの城を落とし、翌三年、長篠城を一万五千の兵で取り囲んだ。

この時、城主貞昌側は手勢わずか五百人余りだったが、織田・徳川連合軍の到着まで城を死守。連合軍は武田軍を設楽原におびき出し一大決戦を展開、勝利した。この戦いで大いに活躍したのが、当時としては極めて大量の三千丁の火銃だった。

大量投入された火銃の前に、無敵 武田騎馬軍団もなすすべがなく惨敗。一日で勝敗が決し、織田・徳川の全国制覇が決定的なものとなった。伝統的な騎馬隊と、近代的な鉄砲隊の戦いは、結果、鉄砲の圧勝。世界史上初の銃器大量投入による勝利であり、この意味で「長篠の戦い」は 近代戦の幕開け といわれている。

## 長篠の戦い

戦国時代、長篠城をめぐる戦いは三度あった。甲斐の武田軍にとって長篠は、信州の山あいを通して三河へ、また京都を望むには大事な拠点となる所だったためだ。元亀元(一五七〇)年今川方から武田方へ、天正元(一五七三)年武田方から徳川方へ、そして天正三年の戦い「長篠・設楽原の戦い」である。同年五月八日、武田勝頼は、一万五千の兵を率いて長篠城を取り囲んだ。これに対し、時の城主・奥平貞昌は五百の兵で守った。武田軍は激しい攻撃をかけ、ことに十三日夜から十四日にかけての総攻撃は厳しく、城兵はよく応戦した。しかし、城中の食糧は乏しくなり状況は日増しに悪化。落城は目前に迫り、絶体絶命となった。

そこで、岡崎の家康へ援軍を頼むための軍議を開いた。この時、決然と立ち上がり密使を志願したのが鳥居強右衛門勝商(とりいすねえもんかつあき)。五月十四日夜、不浄口から豊川に下りた強右衛門は、約四<sup>キ</sup>下流に上陸、雁峰山を目指して走った。ここで、脱出成功ののろしを上げ、十五日岡崎城に入城。家康、信長に援助を求め、使命を果たした。

しかし、強右衛門は十六日、再び雁峰山でのろしを上げた後、長篠城を目前にして捕らえられ、はりつけに。その時、味方軍に向かって「援軍来ず」と言われそうになるも、「援軍来る」と叫んで敵の槍先に散った。城兵は、この強右衛門の勇士に感激、援軍の到着まで城を死守した。

## 設楽原の戦い

設楽原に着いた織田・徳川連合軍は三万八千。連吾川右岸に南北長く布陣、馬防柵(さく)を念入りに作り始めた。当時、無敵と恐れられた武田騎馬隊の進攻をくい止め、火縄銃で狙い打ちする画期的な戦法だった。一方、武田軍は連吾川左岸の台地に連合軍を見下ろすような格好で布陣。五月二十日深夜、酒井忠次率いる三千の奇襲部隊は廣瀬を渡り、吉川の住人・豊田藤助を案内に船着山を越え、二十一日未明、鳶ヶ巣砦(とりで)の武田軍に対して一気に攻めかかった。久間、中山、姥ヶ懐、君ヶ伏戸などの砦も次々と陥落する中、同日早朝、両軍の戦いの火ぶたが切って落とされた。武田騎馬隊の行方を、ぬかるんだ足元、馬防柵が阻む。そして、三千丁を三段に分けた連合軍の鉄砲隊からは絶え間のない銃弾。武田軍は勇猛に戦ったが、正午すぎには敗北が決した。死者は武田軍一万、連合軍六千。勝頼は残りの手勢を連れ、豊川を北上、田峯城などを経て敗走した。

**選択プロ 歴史探訪ハイク案内図 (参考距離と参考時間)**



**参考距離**

出発地～目的地	距離(km)
桜淵公園～徳川家康本陣跡	3.7
徳川家康本陣跡～設楽原歴史資料館	1.3
設楽原歴史資料館～長篠城址史跡保存館	3.5
桜淵公園～長篠城址史跡保存館	8.2
桜淵公園～東新町駅	1.5

**参考資料** 電車運賃は各隊負担となります。

JR 飯田線 東新町駅～長篠城駅 乗車時間	200円 約17分
JR 飯田線 東新町駅～三河東郷駅 乗車時間	140円 約4分
JR 飯田線 三河東郷駅～長篠城 乗車時間	180円 約13分

# JR 飯田線時刻表

(平成21年3月14日現在)

## 下り (飯田方面)

行先	豊橋発	豊川発	新城発	三河東郷発	烏居発	長篠城発	本長篠発
本長篠	7:32	7:46	8:08	8:16	8:23	8:25	—
天竜峡	8:12	8:27	9:00	9:07	9:18	9:20	9:23
本長篠	9:08	9:21	10:00	10:11	10:18	10:20	—
特急 飯田	10:08	10:18	10:33	→	→	→	10:45
天竜峡	10:43	10:55	11:20	11:28	11:35	11:38	11:41
本長篠	11:39	11:52	12:20	12:27	12:37	12:40	—
本長篠	12:43	13:03	13:25	13:33	13:40	13:42	—
天竜峡	13:43	13:56	14:22	14:29	14:37	14:39	14:46
天竜峡	14:43	14:55	15:25	15:33	15:43	15:45	15:50
本長篠	15:40	15:53	16:20	16:28	16:34	16:37	—
天竜峡	16:43	16:55	17:15	17:27	17:34	17:36	17:39
本長篠	17:19	17:31	17:52	18:03	18:10	18:13	—
特急 飯田	18:20	18:32	18:47	→	→	→	18:58
水窪	17:57	18:09	18:51	18:59	19:05	19:08	19:11

## 上り (豊橋方面 ※ 行先は全て豊橋行き)

本長篠発	長篠城発	烏居発	大海発	三河東郷発	新城発	豊川発	豊橋着
8:40	8:43	8:45	8:48	8:52	9:00	9:19	9:30
9:10	→	→	9:15	9:19	9:25	9:43	9:54
9:35	9:38	9:40	9:43	9:47	9:55	10:13	10:24
9:59	10:02	10:04	10:07	10:11	10:17	10:43	10:54
—	—	—	—	—	10:51	11:13	11:24
11:00	11:03	11:06	11:09	11:13	11:25	11:43	11:54
11:55	特急 →	→	→	→	12:06	12:19	12:29
12:27	12:29	12:32	12:34	12:38	12:45	13:04	13:16
13:00	13:02	13:05	13:08	13:12	13:19	13:43	13:54
—	—	—	—	—	13:50	14:13	14:24
14:00	14:02	14:05	14:07	14:11	14:25	14:43	14:54
—	—	—	—	—	14:55	15:13	15:24
15:01	15:03	15:06	15:09	15:13	15:20	15:43	15:54
—	—	—	—	—	15:52	16:13	16:24
16:02	16:05	16:07	16:10	16:14	16:20	16:43	16:54
—	—	—	—	—	16:50	17:11	17:22
16:55	16:57	17:00	17:02	17:06	17:15	17:42	17:53
17:15	17:17	17:20	17:22	17:26	17:35	17:58	18:13
17:55	特急 →	→	→	→	18:07	18:21	18:31
—	—	—	—	—	18:23	18:47	18:59
18:25	18:27	18:30	18:33	18:36	18:47	19:12	19:23

東新町駅は長篠方面に向かって新城駅の次の駅になります。